

# 石川の林業

昭和31年3月26日 第3種郵便物承認  
令和6年1月10日発行（毎月1回10日発行）

題字 馳 浩 会長筆



最上位規格のプレミアム（8個入り1箱）が30万円で落札



高値に沸いた初競りの様子  
（令和5年12月15日：金沢市中央卸売市場）



出荷したプレミアムを持つ奥能登原木  
しいたけ活性化協議会の樋下義勝会長

## 原木しいたけ「のとてまり」の初競り

### 目 次

1  
2024  
No. 824

新年のご挨拶	2
「のとてまり」の生産拡大と販売促進に向けた取り組み	3
七尾市における森林環境譲与税を活用した取組状況	4
この人に聞く（土田製材所 代表 中町 裕帆 さん）	5
能登ヒバのブランド化と製品の安定供給（鳳至木材株式会社）	6
林業通信（令和5年12月石川県議会 議事要旨）	7
木材市況、特用林産市況	8



## 新年のご挨拶

石川県山林協会会長 馳 浩

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、日頃より、本県の森林・林業・木材産業施策の推進にご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年、石川県では、5月に富山県との共催による「G7富山・金沢教育大臣会合」が、秋には天皇皇后両陛下にご臨席いただいた「いしかわ百万石文化祭2023」が開催されるなど、県内各地が大いに盛り上がり、質の高い文化や食、高い教育レベルなど、本県の魅力を国内外に発信することができた1年であったと考えております。

一方で、5月には奥能登地震、7月には線状降水帯による大雨と、災害が相次いだところであり、県としては、引き続き、県民の安全

を守る「危機管理」に万全を期してまいります。

そして、昨年9月には、石川の新たな時代を切り拓く今後10年の羅針盤となる「石川県成長戦略」を策定いたしました。

「幸福度日本一に向けた石川の未来の創造」を基本目標に掲げ、「新たな時代を捉えて飛躍・成長する産業づくり」をはじめとした6つの戦略と「デジタル活用推進」、「カーボンニュートラルの推進」という2つの横断的戦略の「も」とで、38の施策を盛り込んだほか、戦略ごとの14の主要目標と施策ごとの160のKPIを設定しました。

今年を「成長戦略実行元年」と位置づけ、具体の施策や数値目標の進捗状況について、新たに設置する石川県成長戦略「ミライカイ

ギ」において、県内各地域の次代を担う方々からご意見を伺うこととしており、こうした取り組みを通じて、成長戦略の実行性を高めたいと思います。

さて、県土の約7割を占める森林は、木材の供給はもとより、豊かな水を育み、土砂災害を防ぐとともに、地球温暖化の防止や生物多様性の保全など、私たちの生活に潤いと安らぎをもたらすし、安全で豊かな暮らしを支えてくれる、県民共有の財産です。

昨年5月には、「能登のアテ林業」が県内で初めて林業遺産に認定されるなど、本県における林業の取り組みが改めて注目されており、このかけがえのない豊かな森林を健全な姿で未来に引き継ぐためには、林業・木材産業のさらなる発展を図り、森林資源の循環利用の実現につなげていかなければなりません。

このため、県としても、県民の皆さんのご理解とご協力のもと、「いしかわ森林環境税」や「森林

環境譲与税」などの財源を有効に活用し、住宅などへの県産材の利活用促進やJ-クレジット制度の普及など、様々な取り組みを進めていきます。

さらに、より多くの県民の皆さんが森林に関心を示していただけるよう、令和12年の全国育樹祭の本県開催に向け、主催者である(公社)国土緑化推進機構に要請を行っており、今後、県民の理解と参加による森づくりを一層盛り上げてまいりたいと考えております。

今後とも、県民共有の財産である森林を健全な姿で未来の世代に継承できるよう、川上から川下までの総合的な取り組みを推進していきたいと考えておりますので、引き続き、森林・林業・木材産業の振興により一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

最後に、山林協会の皆様方にとりまして、この1年が希望に満ちた輝かしい年となりますとともに、皆様方の益々のご発展を心より祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 「のとてまり」の生産拡大と 販売促進に向けた取り組み

### 1 はじめに

奥能登原木しいたけ活性化協議会（以下「協議会」）では、奥能登2市2町で生産される原木しいたけ「のとてまり15」の特秀品を「のとてまり」と名付け、ブランド化に取り組み、その概要について紹介します。

### 2 今シーズンのスタート

今シーズンは、昨年11月上旬までの気温が例年に比べて高く、しいたけの初期生育が例年に比べて2週間程度遅れました。生産者も生育状況を心配していましたが、11月中旬以降から気温が下がり「のとてまり15」の生育は良好となり、12月14日から「のとてまり」が、全農いしかわ穴

水事務所に初出荷されました（写真1）。



写真1：出荷された「のとてまり15」を選別するJA職員

32個が「のとてまり」に認定され、翌日、金沢市中央卸売市場で行われた初競りでは、最高規格のプレミアム1箱が30万円と、昨年に続く高値で落札されました。

### 3 生産拡大に向けた取り組み

昨シーズンは、1月中下旬及び3月上旬に気温が大きく変動したため、しいたけの傘が開き、厚みや巻き込みが「のとてまり」の規格を満たさず出荷量が減った時期もありましたが、最終的な生産量は平年並みの0.3トンとなりました。

平成30年度以降、こういった冬期の気温が安定しないシーズンが続いており、県や協議会ではその対策に取り組んでいます。

具体的には、県農林総合研究センターにおいて、「のとてまり」の生育に有利な環境条件（温度や水分等）をはじめ、近年の気象条件も踏まえた最適な管理方法に関する試験研究を実施しており、その成果を「のとてまり栽培の手引」として取りまとめ、生産者への普及指導を行っています。

このほか、

県では、安定した栽培に必要なビニールハウスをはじめ、

自動換気装置やミスト発生装置、

ハウス内の

温度を自動で計測する機器等（写真2・3）

の設備導入

に対する支援も行っていきます。

### 4 販売促進の取り組み

近年は、「のとてまり」の希少性や高級品としてのブランドイメージが定着し、平均市場価格は上昇傾向で推移しており、昨シーズンは過去最高額となっています。

また、「のとてまり15」も「のとてまり」に影響を受ける形で、以前と比較し市場価格が上昇しており、どちらも着実に評価が高まってきています。

今シーズンの販売促進の取り組みとして、首都圏においては、県ゆかりの有名飲食店で2月1日～12日ま



写真2：ミスト発生装置



写真3：温度の自動計測機器を導入したハウス

での期間に『のとてまり・のとてまり15フェア』で創作料理（写真4）を提供し、県内においても、1月15日～3月3日までの期間に『のとてまりフェア』や、近江町市場での販売会を開催する予定としています。

しいたけには、血液をサラサラにする効果があるグアニル酸や、免疫力を高める効果があるβグルカンといった成分が含まれており、天然の健康食品とも言われています。

読者の皆様も、是非、肉厚で芳醇な香りと旨みを持つ「のとてまり15」を味わってみてください。



写真4：フェアにおける提供料理イメージ

### 5 最後に

今後、県では生産対策に取り組むとともに、販売対策によりブランド価値を向上させることで、生産者の意欲の向上や新規生産者の確保に繋がっていきたく考えています。

関係者の皆様には、今後とも引き続きご協力をよろしくお願ひします。（県森林管理課森林資源育成C）

## 七尾市における森林環境譲与税を 活用した取組状況 七尾市産業部農林水産課

### 1 はじめに

七尾市は、海辺の平地が少なく、そのすぐ背後は山地（傾斜地）といった能登半島の特徴的な地形を有しており、平地の市街地とともに山地の集落が形成され、生活の場、生産活動の場として利用されてきました。

また、「豊かな森林が豊かな海を育てる」と言われているように、山から海まで密接につながった土地利用が、「能登の里山里海」独特の農林水産業や食文化、祭礼、工芸、生物多様性を生み出しています。

そのため、適切な森林整備の取り組みは、国土保全、水源の涵養などの森林の機能を維持するだけでなく、地域の生活を守ることもつながります。

### 2 森林経営管理制度の取組状況

七尾市全域の面積3万1千ヘクタールのうち、約60%の2万ヘクタールが森林面積です。森林面積のうち人工林は1万ヘクタール、人工林率は約5割であり、県平均の4割を大きく上回っています。

国で創設された森林環境譲与税を

活用し当市では、森林経営管理制度が始まった初年度から令和4年度までの4か年で、旧能登島町全地区及び旧田鶴浜町一部地区における856ヘクタールの森林の意向調査を行いました。森林所有者からの回答率は6割近くあり、そのうち337ヘクタールの森林で、市に管理委託を希望する旨の回答を得ました。

その結果を集約し、間伐へつなげていかなければなりません。特に能登島地区はこれまでの施業実績が少なく森林整備において重要な境界明確化の基礎資料が不足しているため、地図上に林地の地番を明記する林地地番図の必要性を強く感じました。

### 3 林地地番図の作成

現在、当市で運用中の林地台帳附属の地図は、森林簿に付帯する森林計画図が原案となっています。

森林クラウド上で森林の位置を地図や航空写真と一緒に見ることができ大変便利なのですが、場所によっ

ては森林境界の位置の大きなずれや、地番の抜けがあり、別の資料で確認する必要があります。

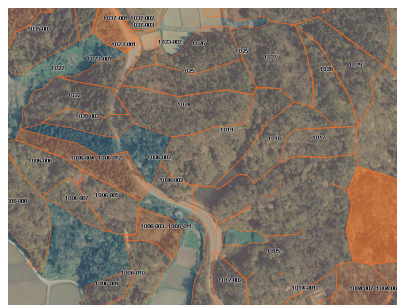
一方、土地の位置や境界を知りたいときにまず確認するのは公図です。

しかしながら、縮尺や方角を持たず、形状の精度が低い公図だけでは位置の判明には不十分で、複数の根拠を用いることとなり、森林境界を明確化する作業はかなりの時間を要する課題となっていました。

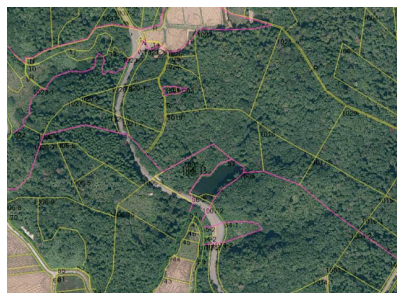
そこで、森林境界を明確にし、その後の集約作業の効率化を図る目的で、令和3年度より当市では、林地地番図の作成に取り組みました。

地番図は、地形等に合わせた土地の最小単位である筆の境界線の位置を編集・調整してつなぎ合わせた合成公図です。明瞭な構造物または道、川などで公図の位置補正を行い、微地形図の尾根、谷、樹種樹高などで筆線の位置補正を行っています。広域的に作成することで、不整合が少なくなります。

これらの合理的な根拠を持った林地地番図は、境界明確化において、



現行の林地台帳附属図



同区域で新たに作成した林地地番図

森林所有者に机上でも説明できるわかりやすい資料になり、事業の円滑化が図られるものと考えております。林地地番図の整備地区は、意向調査を行う順番を考慮して選定し、令和5年度までに市全体の対象筆数の半分程度が作成されます。

### 3 おわりに

今後は、ストックした意向調査箇所から順次、森林整備を行っていくこととしています。

これまでに作成した林地地番図は、境界候補図として、境界明確化作業に活用していくところですが、境界明確化業務の受注者への情報提供の仕方や、境界について地権者の合意を得る過程で生じた修正など、次なる課題も予想されますので、最適な方法を探っていきながら、森林整備を進めていきたいと考えています。

(七尾市産業部農林水産課)



## この人に聞く

### 創業100年・タイニーハウスで新たな県産材の利用促進

土田製材所 代表 中町 裕帆 さん

志賀町火打谷地区で製材業を営む土田製材所 代表 中町裕帆さんにお話を伺いました。

#### 1 過去

土田製材所は、大正10年に曾祖父が事業をはじめ、昨年で創業100年を迎えました。私が生まれる少し前（昭和48年頃）までは、祖父は山を買って、馬を使って木を伐り出していたそうです。祖父と祖父に抱かれた姉、馬が写る写真が残っていて、当社のホームページでも紹介しています。



代表の中町裕帆さん

私は高校を卒業後、大学進学で東京へ行き、卒業後も10年ほど木材とは別の業界で働いていました。実家から祖父母が高齢で仕事ができなくなってきたと聞き、帰郷して製材所で働き始めました。当時は、別荘の新築などの

仕事は、たくさんありました。幼い頃、私は学校から帰ると工場で遊んでいたので、製材業の仕事は知っているつもりでした。実際に働いてみて初めて、体力を使う大変な仕事だと分かりました。

#### 2 現在

8年前に父から経営を引き継ぎ、私で4代目となります。木材は県産のスギやアテを使うようにこだわっていて、主に、穴水町の木材市場へ買い付けに行っています。

現在、能登地域では市場が1箇所になり、開市日は2週間に一度だけなので、欲しい木材がない場合は、お客様にお待ちいただくこともあります。最近では、地元と森林組合などが近くで伐採をするときに声をかけてもらい、トラックで直接山土場へ買い取りに行くこともあります。数年前から、2畳から6畳ほどで趣味のスペースや店舗として活用できる『タイニーハウス』の製造販売設置をはじめました。最初は、工場内の物置小屋として作りました。木のぬくもりを感じる

コンパクトな空間なので、ゆったりと自分らしい時間を過ごすのに良いのではないかと思ったことが、販売に至ったきっかけです。

弊社の強みである『お客様の希望に応じた対応ができる』ことから発展した商品で、土台にはアテ、柱や下見板にはスギやヒノキを使用し、完全受注製造をしています。

これまでに、家庭用の駐輪所や倉庫、スイーツやエンゲージリングの店舗など、県内外から様々なご注文をいただき、塗装したり、調理器具やシヤワーなどの設備等にも対応しています。また、取り壊される学校や住宅から収納棚、引き戸、椅子など



タイニーハウスをイベントでPR



工場を組み立てるため現場施工が早くローコスト

を引き取り、木材部分や金具を修理したアンティーク品の販売も行っています。

ホームページを見て連絡が来ることもありますが、タイニーハウスと一緒に使って下さるお客様もいらっしゃいます。

#### 3 未来

夢のひとつは、山の中にたくさんの『タイニーハウスが建つ小さな街』人が集まる空間を創ることです。そのため、工場の近くの山の一角で不要な木を伐採したり、草を刈ったりして準備を始めています。

私以外に5名（フルタイムでない方を含む）が働いていますが、タイニーハウスの注文も軌道に乗ってきたので、新たに1人雇用したいと考えています。

#### ○あながき

中町さんには、県緑化センター（志賀町）で伐採したアテを使用し、原木の形を活かしたセンター入口の標柱やベンチの製作に協力をいただきました。

これからも火打谷地区が、森林資源を活かして人が集まる地域であり続けることを期待しています。（県中能登農林総合事務所森林部）



## 能登ヒバのブランド化と製品の安定供給

### 鳳至木材株式会社

#### 1 沿革

弊社は、輪島市で昭和21年に創業し、これまで77年間に渡り、「能登ヒバ、能登スギ」を中心とした製材業を営んできました。創業当初は、地域に根付いた製材所として、地元工務店と協調しながら一般住宅用材を製造販売していました。

昭和40年中頃より、「シロアリに抵抗性があり湿気からの腐食に強い」などの特性がある能登ヒバは、北陸地方、特に富山市や高岡市方面に「柱、土台」として需要が高まり、当時は、能登ヒバの丸太価格はヒノキより安価であったため、次第に地

元よりも富山県などへの販売量が増えていきました。

平成になると、能登ヒバの良好な性質は全国的にも周知される事となり、神社、仏閣、文化財修復など用途も広がり、石川県でも県産材として公共事業等に幅広く使われるようになりました。

しかしながら、能登ヒバの知名度が広がるにつれ丸太価格も高騰し、取引が難しい状況になる中、当社の販売先を加賀や金沢方面に定め、県産材として販路拡大に努めてきました。能登ヒバは、乾燥に伴いねじれや曲がりが発生しやすく、取り扱いが難しいと言われてきましたが、人工乾燥の仕方を工夫してねじれを抑えることが可能となり、

4年間地中に埋設した木製杭の被害度とシロアリの被食害率

区分	樹種	被害度						
		スギ	能登ヒバ	ヒノキ	青森ヒバ	米ツガ	カラマツ(北洋材)	エゾマツ(ク)
被害度	地キワ部	2.6	2.0	2.5	2.0	3.5	1.3	4.2
	地下部	2.2	2.4	3.0	3.0	3.0	1.9	4.3
シロアリ被食害率		70%	25%	50%	50%	60%	33%	80%

出典：石川県林業試験場研報15号 林業技術No516号

(試験方法)

供試材料

心材より採材した3cm×3cm×40cmの杭被害度の観察

0：健全

1：部分的軽度被害

2：全面的軽度被害

3：全面的軽度被害に加え部分的激害

4：全面的に激しい被害

5：崩壊状態

モルダー製品やフローリング等の板加工品などを手掛けるようになりました。ヒノキが主流だった加賀や金沢方面で、能登ヒバのブランド力を高めるPRに努め、少しずつユーザーから顧

客まで理解が得られるようになってきました。

#### 2 主な実績

このようなことから、当社における能登ヒバ(無垢材)の主な納材実績として、県の公共建築物では金沢城公園の「菱櫓」、「玉泉庵」、「鼠多門・鼠多門橋」などがあります。

また、国宝等に指定されています富山県高岡市の「勝興寺」や広島県の「大願寺」の修復をはじめ、北陸地方等の神社・仏閣や公共事業・大型物件などに使用される能登ヒバの納材を広く手掛けてきました。



鼠多門の床や壁等に能登ヒバを使用 (写真出典：石川県公園緑地課 HP より引用)



能登ヒバをふんだんに使用した鼠多門と鼠多門橋

さらには、住宅のエンドユーザーに、当工場にある能登ヒバ製品を直に見てもらおうツアーを開催するなど幅広くPRを図るとともに、県内のハウスメーカーや工務店等と共同で

「能登ヒバのブランド化」を積極的に行うなど、その認知度が深まってきていると考えています。

#### 3 今後のついで

今後のビジョンを掲げる際、今まで築いてきた「能登ヒバのブランド化」をさらに深化させ、より一層向上させていくことが重要となります。

加えて、当社でも在来工法の工務店よりハウスメーカーへ納材する比重が大きくなり、常に「価格と納期」といった課題がある中、昨今のウッドショックのような大きな変動が起これると、安定した納期と価格が即座に困難となる状況に直面してしまいます。

当社では現在、製材機2台、トリプルギャングソー、マルチ多面加工機、人工乾燥機3台を少人数でフル稼働させていますが、加工技術の継続と向上を図りながら短くなる納期と価格の安定という、相対する課題に鋭意取り組んでいくとともに、能登ヒバのブランド化を推進してきたパイオニアとして、今後も各方面に広く発信し活用を進めていきたいと考えています。

(鳳至木材株式会社)



## 林業通信



令和5年12月石川県議会 議事要旨

○一般質問 令和5年12月8日

善田 善彦 議員

いしかわ森林環境税を活用した放置竹林の除去について、どのように取り組みが進んでいるか。

また、令和5年11月に開催された評価委員会では、どのような評価がなされ、これを踏まえ、来年度以降どのように取り組むのか。

竹沢 淳一 県農林水産部長

竹林を放置しておくこと、森林の保水機能の低下や斜面の崩落などの山地災害の発生に繋がることから、平成29年度よりいしかわ森林環境税を活用して、放置竹林の除去を進めている。

令和3年度までの5年間で約600ヘクタールの除去を行い、昨年度からの第4期対策でも、この取り組みを継続し、昨年度は約100ヘクタールの除去を行った。

先月末に開催した有識者による評価委員会においては、現地視察の後、公益的機能の発揮に有効であるため対策を継続して進めていくことが重要、あるいは急峻な現場での作業であるため労働安全に配慮した対策を講じるべきといった指摘を頂戴した。さらに、令和4年8月の加賀地域の豪雨災害や令和5年7月の河北郡市を中心とする豪雨災害を受けて取

り組みが進んでいる、流域治水プロジェクト対策の一つとして竹林の除去を位置づけて、関係者の理解を得つつ事業を進めている。

いしかわ森林環境基金事業については、引き続き、放置竹林の除去はもとより、クマなど野生獣との緩衝帯整備と併せて計画的に取り組んでまいりたい。

太田 臣宣 議員

令和5年7月の大雨災害について、被災地域全体と内灘町、津幡町、かほく市ごとの被害件数と被害額を聞く。また、林道等の被害についての災害査定の進捗状況を聞く。

竹沢 淳一 県農林水産部長

県全体では、農地農業用施設や林道等合わせて1528件、34億円余の被害となり、内灘町では16件、7600万円、津幡町では1259件、25億5000万円余、かほく市では79件、4億6500万円余となつている。国の災害査定状況については、農地農業施設では県全体の8割の219件が既に完了し、残りは津幡町で12月15日に終了する。また、林道被害の57件は、全て12月1日までに完了している。

車 幸弘 議員

①森林環境譲与税を活用した森林整備の実施状況と、市町の森林整備の推進に向けた県のサポートを聞く。

②林業現場の安全確保や新規就業

者の確保など、林業の担い手確保に向けた取り組み状況を聞く。

竹沢 淳一 県農林水産部長

①森林の公益的機能を発揮させていくためには、手入れがなされている森林だけでなく、所有者が高齢化・不明となっているなどの理由で手入れがなされていない森林も含めて、面的に整備・保全していくことが必要である。

このうち手入れ不足人工林については、平成19年のいしかわ森林環境税の導入以降、県が主体となって整備を進めてきたが、国の森林環境譲与税が導入されたことも踏まえ、市町の理解も得て令和元年度よりその整備を市町に移行している。

一方、市町には林業の経験がある専門職員が少ないことから、県の職員やOBを派遣し、森林整備の前提となる森林所有者の同意取得が円滑に進むよう支援を行っている。この結果、市町における森林環境譲与税の執行率は、全国平均が約6割のところ本県は約8割となっている。

②県では、林業の担い手の確保のために、新規就業者の促進とその定着率の向上に取り組んでいる。新規就業者の確保に向けては、高校生等を対象とした林業出前講座や林業体験実習を行っているほか、就業に必要なとなる、林業の基礎知識やチェーンソーや重機を運転するための資格取得に向けた講習会を実施している。

また、林業の現場は、急斜面で林

業機械を持って木を伐採するなどの危険な作業を伴うため、新規就業者が定着するためには、労働安全の確保が急務である。

このため、チェーンソーなどの機械での事故を防止する保護服や手袋などの安全装備品の購入助成や高所で行う伐採作業などの安全訓練を行うとともに、傾斜や樹木の密度といった劣悪な現場条件を適正に発注単価に反映し、安全対策が確実に進むよう指導もしている。

引き続き、こうした取り組みにより、労働安全の確保と林業の担い手の確保・定着を進めてまいりたい。

○一般質問 令和5年12月12日

堂前 利昭 議員

林業には人材育成の場があるのか、その内容と併せて聞く。

また、人材育成の場の利用者数、新規就業者数について、過去5年間の推移を聞く。

竹沢 淳一 県農林水産部長

第一次産業の人材の確保、育成、定着に向け、林業では「あすなる塾」を開講し、就業前に必要な基礎技術や知識を実践的に学べる研修、就業後のスキルアップ研修まで、段階に応じてきめ細かな支援を行っている。受講者は、平成30年度から令和4年度までの過去5年間で121名おり、若干増加している。

また、この間の新規就業者数は144名で、若干増加している。

(県森林管理課)

